

生徒が児童クラブ支援員にマスク作り

令和2年4月18日 北鹿新聞掲載

手作りマスク73枚届ける

大館桂桜高生活科学科 依頼受け児童ク支援員に

大館桂桜高校（片岡俊仁校長）の生活科学科の生徒が、大館市放課後児童クラブ支援員のマスク73枚を作り、17日、城西児童仲良しクラブに届けた。子どもたちと接する支援員のマスク不足に悩む市教育委員会からの依頼で、2、3年生69人が2日で仕上げた。市内19施設の支援員64人が使用する。



支援員⑤にマスクを届ける生徒（城西児童仲良しクラブ）

同学科の2、3年生は地域のマスク不足に少しでも役立てればと、授業で全校生徒と教職員分の720枚を製作した。その取り組みを知った市教委生涯学習課が、支援員の製作を同校に依頼。市教委が材料となる綿の布や、さらしを用意した。

15日前に依頼を受け、16日までの2日間で、予備の分も含めて完成させた。生徒を代表して届けた笹島真凜さん（3年）は「妹が放課後児童クラブを利用し、先生のマスク不足を知っていたので、協力できてよかった」。武田優那さん（同）は「みんなで協力して作ったマスクで人の役に立てるのがうれしい」と話した。

受け取った支援員の三浦ゆ

かりさん（47）は「毎日70人近くの児童と接しているのでマスクは必需品。個人で用意したのも少なくなり、不安だったので、非常に助かる」と感謝した。